

議 事 録

件 名	大網白里市総合教育会議
日 時	令和3年2月10日(水) 10:00～11:05
会 場	本庁舎別棟2階会議室1
出席者	<p>【構成員】</p> <p>市 長 金坂 昌典</p> <p>教育委員会 教 育 長 深田 義之 教育長職務代理者 齋藤 壽彌 委 員 今井 克典 委 員 炭田 弥奈子 委 員 松本 美幸</p> <p>【事務局関係】</p> <p>管理課長 石原 治幸 管理課学校教育室長 川崎 宏薫 管理課主幹 藤田 幸之介 管理課副課長 北田 和之 管理課総務班長 須永 陽子 生涯学習課長 石井 一正 生涯学習課副課長 深山 元博</p>
傍 聴 人	なし
議 題	<p>(1) 大網白里市教育大綱について</p> <p>(2) 園児・児童・生徒の減少に伴う課題について</p>
<p>1. 開会</p> <p>2. 市長あいさつ</p> <p>本日は、ご多忙のところ、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。また、教育委員の皆様には、日頃より、本市教育行政の推進にご尽力を賜っておりますことに対し、心より感謝申し上げる次第でございます。</p> <p>さて、本市では、現在、第6次総合計画の策定に向け、鋭意、作業を進めているところでありますが、この次期総合計画では、まちづくりの基本目標として、6つの項目を掲げており、そのうち、教育面においては、「将来を担う子どもたちを育み、生涯を通じて学ぶまち」を基本目標に、各種施策を展開してまいります。</p> <p>本日は、この総合計画で掲げる目標や施策の指針となります、「大網白里市教育大</p>	

綱」についてを1点目の議題として、皆様と協議させていただきたいと存じます。折しも、新型コロナウイルスの感染拡大によりまして、これまで当然のように行っていたことが出来なくなっております。私たちの暮らしや社会経済に重大な影響が出ております。子どもたちも、様々な制約やストレスを抱えながら、日々、学校生活を送っていることと思います。こうした点なども踏まえながら、この教育大綱に基づき、今後の本市の教育の発展に向け、各種施策を進めてまいりたいと考えております。

また、近年は、全国的に少子高齢化が大きな問題となっております。本市におきましても、少子化・高齢化が深刻な状況にあり、子どもたちの数も年々減少していく傾向がございます。このようなことから、2点目の議題として「園児・児童・生徒数の減少に伴う課題について」を挙げさせていただきました。非常に難しい問題ではありますが、市長部局と教育委員会とが互いに共通認識を持ちながら、一步一步、課題の解決に向かって進んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

3. 議題

(1) 大網白里市教育大綱について

(金坂市長)

教育大綱については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に、地方公共団体の長が地域の実情に応じ教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるとなっております。本市では、平成28年度に策定し、「教育大綱」を市の教育・文化の根幹に位置づけ、各種施策を推進してまいりましたが、本年度末をもって対象期間が終了となりますことから、次期大綱について協議をお願いします。

それでは、事務局から次期大綱（案）について説明願います。

(事務局)

大網白里市教育大綱（案）につきまして、ご説明いたします。

まず、「教育大綱の位置づけ」です。

「大網白里市市民憲章」では、「明るく、豊かな、住みよい田園文化都市」づくりを明記しています。これを受け、今回策定する、「大網白里市第6次総合計画」では、2つの基本理念を掲げています。

1つは“田園文化都市の継承”具体的には「田園環境と都市環境の調和」です。もう1つは“みんなで作ろう”具体的には「市民参画と協働の推進」です。

これらを踏まえた「将来像」は、“未来に向けて みんなで作ろう！住みたい・住み続けたいまち”としています。これに迫る「まちづくりの基本目標」を6つ挙げていますが、その1つが、「【教育・文化の充実】将来を担う子どもたちを育み、生涯を通じて学ぶまち」となっています。

これを受けて、本市の「教育大綱」をここに示します。

令和3年度から令和7年度の5年間で想定した大綱になります。

それでは、大綱（案）の中身をご説明いたします。

本市がめざす教育は、「心身ともに健康で、創造性に富んだ子どもたちの育成」と「生涯（人生100年）を通じた学習活動の推進」の2つです。

大きく分けると、前者は「学校教育」が目指していくもの、後者は「生涯学習」が目指していくものとなります。

もちろん、「学校教育」と「生涯学習」は、明確に分けられるものではありませんし、分けるべきものではありません。互いに関係し合う必要があるものですので、「学校教育」で学んだものが、生涯に渡って生かされなければなりませんし、何より「学校教育」で学ぶ際に、地域や社会と関わり合って学ぶ必要があります。ただ、「学校教育」と「生涯学習」のそれぞれの立場から、めざしていく方向性として、より比重が重いものということで、分けて表記したものです。

さて、これら2つを達成するために「6つの柱」を設定しました。読み上げさせていただきます。

1. 「生きる力」の育成

生涯（人生100年）にわたって、たくましく生きる子どもたちを育てるために、学校・家庭・地域が連携し、社会の変化に対応できる「健やかな体」「豊かな心」「確かな学力」を育む教育を推進します。

2. 子どもの発達に応じた学校教育の推進

個々の子どもの発達に応じた教育、情報化・国際化に対応した教育を推進します。

3. 地域とともに歩む学校づくりの推進

本市の「人・もの・こと」を活用した体験的な教育活動や学校運営を推進します。

4. 豊かな学びを支える生涯学習の推進

ライフステージや多様なニーズに応じた学びを提供し、学習成果を生活の場に生かしていくことができる環境整備を推進します。

5. 健康・体力づくりをめざしたスポーツ活動の推進

学校及び各種団体の連携のもとに、多くの市民が運動に親しみ、心と体の健康を維持することができるスポーツ推進体制の充実を図ります。

6. 未来につなげる地域文化・芸術の振興と発展

各種団体と連携し、地域文化振興体制を充実させ、地域文化の保全・継承を推進します。また、市民参画の芸術文化事業を推進します。

以上となります。

なお、「教育大綱の位置づけ」や「教育大綱」が目指す2つの教育のあり方は、従来の大綱には無かったものです。また、6つの柱につきましては、従来の5つの柱を継承・発展しているものです。つまり、新しい「教育大綱」は、これまでの大綱の精神を継承しながらも、その立ち位置を明確にし、本市の教育が何を目指していくのかを、より鮮明に表すようにしています。

本日、教育大綱が定まりましたら、この大綱を具現化していくための「大綱白里市教育基本方針」、並びに、「大綱白里市学校教育指導の指針6つの柱」を作成してまいりたいと考えます。審議の程、よろしく願いいたします。

（金坂市長）

ただいま、事務局から説明がございましたが、委員の皆様から質問や意見など、

ご発言をいただきたいと思います。齋藤教育長職務代理者からお願いいたします。

(齋藤教育長職務代理者)

市として方針や大綱を作成するときに必要なことは、教育行政の現状の分析と、どのようなテーマで課題を設定するかという見極めが大事だと思います。今、説明のあったとおり1番から6番までのそれぞれのテーマをきちんと整理されていますので、非常に基本的な考えとして良いと思います。これから具体的な施策を設定されると思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

先ほど、市長からお話がありました、市の第6次総合計画の審議会に教育委員会の代表として出席させていただいております。今まで5回開催され答申されたと聞いております。まちづくりの主要課題の中に教育文化の充実が入ってきますが、市の計画と連動してこの大綱が策定されていると思います。会議の中で議論が尽くされ作られたものですので、先ほど申し上げたとおり、基本的な考え方としてはよろしいかと思ひます。

ただ、一つお願ひしたいことは、今後、5年、10年と経過したときに今回掲げたものがどこまで具体化され、実行できたのか検証する必要があると思ひます。掲げただけで終わってしまうことのないよう、どの項目がどこまでできたのか、どこまで進捗したのかチェックをぜひお願ひしたいと思ひます。

(金坂市長)

続いて、今井委員お願ひいたします。

(今井委員)

今、事務局からご説明いただきましたが、大綱白里市市民憲章や第6次総合計画の2つの基本理念、そして教育大綱の整合性がとれていると思ひます。

また、6つの柱については、教育委員会としての確にとられていると感じています。この6つの柱の2つ目にあります「子どもの発達に応じた学校教育の推進」の、情報化・国際化に対応した教育を推進します。」について、この情報化は社会の流れの中で非常に重要な位置づけとされているように思ひます。情報化に対応する教育というのは、喫緊の課題だと思ひます。

いずれにしても6つの柱は基本的なことだと思ひます。先ほど、齋藤教育長職務代理者からもお話がありましたとおりの柱をたてるだけでなく、実現するための手段や確実に実行することが重要だと思ひます。大綱については、この内容でよろしいと思ひます。

(金坂市長)

炭田委員お願ひいたします。

(炭田委員)

大綱ということばを初めて耳にしたので、これがどういったものなのか理解できませんでした。この大綱が新しく作成されるにあたり、評価し変わっていくものなのか。そもそも大綱とはどういうものなのか、まずご説明いただきたいと思います。

また、1番目の柱「生きる力の育成」の捉え方について、どのように捉えているのかお聞きしたいと思います。

3つ目として、本市の、「人、もの、こと」を活用した体験活動について、具体的にご説明いただきたいです。

(金坂市長)

ただいま、炭田委員から3つの質問がございましたので、事務局に説明を求めます。

(事務局)

1点目の教育大綱については、先ほど市長からのお話にもございましたが、まずは地方教育行政の組織及び運営に関する法律がございます。その中で地方公共団体の長、本市であれば金坂市長が教育、学術、芸術に関する総合的な施策として大綱を定めなくてはならないと規定されております。また、大綱とは、漢字を見ると大きな綱ということで、大網白里市の教育がどのような施策をするのか、どのようなことをしていくのか、細かい具体的な施策ではなく、それらを束ねるもの、まとめるものという位置づけになります。大網白里市の学校教育は何を目指していくのか、生涯学習は何を目指していくのか、大きな綱として捉えていただきたいと思います。

2点目の達成への6つの柱の1番目にある「生きる力」とは、文部科学省で謳っている「生きる力」と同じ意味になります。学習指導要領にも記載されているもので、読み上げますと、今、変化の激しい社会を担う子ども達に必要な力は、基礎・基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようとする課題を見つけ自ら学び、自ら考え主体的に判断、行動し問題解決する資質や能力であり、なおかつ自らを律しつつ、他人と共に協調し他人を思いやる、感動する心などの豊かな人間性、もう一つはたくましく生きる健康や体力等と説明が続きますが、それと同じものになります。学校現場では「生きる力」とは普通に使っているのですが、この後、教育大綱を市民の皆様にお示ししていく中で、具体的な施策をこれから明記して行く段階で、「生きる力」の定義について解るようにしてまいりたいと思います。

3つ目の柱については、「人」とは大網白里市に関連する偉人等で捉えていただきたいと思います。例えば両総用水を引くためにご尽力された十枝雄三氏です。「もの」については、大網白里市に関係する建造物など歴史的な文化財や伝統芸能などです。また、「こと」については、大網白里市の歴史上の出来事など、これら一つ一つを郷土学習に活用して体験的な教育活動、そして学校活動を推進してまいりますという意味になります。

(金坂市長)

ただいま質問に対する回答がありましたが、炭田委員いかがでしょうか。

(炭田委員)

良くわかりました。ありがとうございました。

(金坂市長)

続きまして、松本委員いかがでしょうか。

(松本委員)

この大綱に関しましては、とても細かく書かれておりわかりやすいと思います。他の委員の皆様から出たご意見同様に、この大綱は掲げるだけではなく、後で検証を行うことが重要だと思います。検証した後も、われわれに具体的にどうであったかをお示しいただきたいと思います。

これからさらに具体的な施策を作成すると思いますが、全体的な内容を見ていくと実施するにあたり、場所の提供があっても良いのではないかと考えました。現在、各地域に図書室がありますが、例えば大網白里市独自の大きい図書館を作り、それに伴ったギャラリーを設けたりなど、学校教育や生涯学習につながる学習の場となる施設があっても良いのではないかと思います。作成された大綱は、良いものだと思います。

(金坂市長)

深田教育長いかがでしょうか。

(深田教育長)

炭田委員からご質問のありました、「生きる力」について付け加えさせていただきます。2011年、平成23年の学習指導要領の改正の際、生きる力を育む教育という言葉が使われ始めました。ただし、我々も含めどの世代においても、生きる力を持って育てることをしていますが、言葉として日本中で意識されたのがこの年からになります。

(金坂市長)

皆様からご意見をいただきましたこの教育大綱案について、今後、施策も含めお話にもありましたが、しっかり検証等を重ねていくことがなによりも大切であると思いますので、それらを念頭に置き進めてまいりたいと思います。

他にご意見等がないようであれば、この教育大綱案にご賛同いただけましたら、拍手をお願いいたします。(拍手総員)

全員の方にご賛同をいただきましたので、この案を今後5年間の大網白里市教育大綱とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

それでは、議題2の園児・児童・生徒数の減少に伴う課題についてを進めてまいります。はじめに事務局から説明願います。

(事務局)

園児・児童生徒数の推移について説明させていただきます。

各年度5月1日現在の公立幼稚園利用者数の状況ですが、平成14年から明記させていただきましたが、グラフのとおり年々減少しており、令和3年度利用予定園児数は160人となっております。特に、3歳児・4歳児で減少が大きいのですが、令和元年10月から幼児教育・保育の無償化がスタートしたことにより、公立から私立への入園の動きがあったものと考えられます。

次に、小・中学校の児童生徒数の推移について説明いたします。

各年度5月1日現在の児童生徒数の状況で、平成元年度から5年単位で明記させていただきますいております。令和5年は、現在の3歳児の数値を反映したものになります。

大網小学校については、昭和61年に972名とピークとなり、翌年に大網東小学校が開校して約半数の児童となりました。その後、季美の森小学校が平成11年に開校したことから272名となりましたが、みどりが丘地区の住宅開発などにより増加。平成24年4月には新校舎に移転しており、良好な立地条件としてみどりが丘保育園、路線バスあり、ICが近い等から児童が増加し、現在も多少増加しております。

次に、瑞穂小学校については、みずほ台やながた野等の住宅開発により、平成5年頃から急増し、平成14年に732名とピークとなり、その後、減少が続いております。

次に、増穂小学校については、平成元年に全町都市計画決定をした翌年から増加し、平成5年に1,313名とピークとなりました。翌年に増穂北小学校が開校して約半数の児童となり、その後、減少が続いております。

次に、白里小学校については、昭和42年の985名が最大で、その後、緩やかに減少し、平成元年から5年にかけて増加しております。その後、減少が続いております。

次に、大網東小学校については、大網小学校と分離して昭和62年に開校しました。その年をピークに平成3年頃まで横ばいでしたが、その後、減少が続いております。

次に、増穂北小学校については、増穂小学校と分離して平成6年に開校しました。平成8年をピークに、その後は減少が続いております。

次に、季美の森小学校については、季美の森の住宅開発により児童数が増加し、平成11年4月に開校しました。平成17年にピークとなり、その後は減少が続いております。現在、一番少ない児童数の小学校であり、全学年1クラスとなっております。

次に、中学校ですが、大網中学校については、昭和63年に1,162名とピーク

クになり、翌年に増穂中学校が開校し、約半数の生徒となりました。大網中学校は、大網小・瑞穂小・大網東小・季美の森小の4校の子どもが通学することから、5団地の子どもが増加していたため、現在も横ばいの状況です。

次に、白里中学校については、白里小学校と同様に、昭和42年579名が最大で、その後、緩やかな減少をしながらも、昭和60年頃からほぼ横ばいが続きました。平成11年からは毎年減少を続けており、現在は3学年合わせて6クラスとなっております。

次に、増穂中学校については、大網中学校と分離し、平成元年4月に開校しております。499名からスタートし、市街化区域での住宅開発により年々増加、平成11年をピークに減少し続けています。

以上、園児・児童・生徒数の状況について説明をさせていただきました。

年々、園児・児童・生徒数は減少しており、併せて建物の老朽化も進んでいる状況です。ご意見・ご提案など、よろしくお願ひいたします。

(金坂市長)

ただ今、事務局から園児・児童・生徒数の推移や学級数の現状など説明がございました。これからはフリートーク形式で皆様から質問や意見などをいただきたいと思ひます。

(齋藤教育長職務代理者)

私の出身校である白里小学校、白里中学校ですが、私が在籍していたときがピークだと思います。終戦後の団塊の世代の第1号でございまして、同級生が300人おり、50人ずつ6クラスありました。振り返りますと、テストや運動会、進学、就職、結婚など全てが競争のようでした。どの場面においても勝つか負けるかという感じでした。私が中学3年生の時は、おそらく全校で700人から800人くらい居たと思ひます。それを思うと、これから3年後には118人になってしまうことに驚いています。

大網地区とそれ以外の地区、特に白里地区を比較しますと児童生徒数の格差が激しいと思ひます。すでに白里地区内においては小中学生が1人もいないところもあります。特にこれから少子高齢化が進むと、地元の方々にとってはさらにデリケートな問題だと思いますが、やはりこれから議論していく中では、学校の統廃合やあり方などを考えなければならない段階になっていると思ひます。学校の再編だけではなく、これからは災害時の避難所だったり、高齢者の施設など市全体の教育行政を考えて行かなくてはならないと思ひます。併せて福祉政策の中で、空き教室の利用などをうまく生かせないかなど考えてはどうかと思ひます。また、これだけ公立幼稚園の入園者が減ってくると、幼稚園と保育園のあり方についても考えて行かなくてはならないと思ひます。このようにいろいろなことを加味し、再編について少子高齢化に対する市の政策の一つとしてご検討いただきたいと思ひます。

今回、テーマをいただいた際に、事務局に各学校の空き教室の利用状況について

調査を依頼しました。

例えば、大網小学校は、少人数指導教室に使用しているとか、増穂中であればいくつ教室が空いているが必要な教材の保管場所とするなど利活用しています。いずれこの内容については必要となることがあると思いお願いしました。事務局から補足説明がありますか。

(事務局)

大網東小学校について、5年1組と記載されておりますが、こちらは通常ランチルームとなっておりますが、コロナ対応で、このクラスは38人いるため普通教室より広いランチルームを使用しております。

また大網小学校の空き教室は1つですが、普通教室以外の目的で使用していた教室を普通クラスとして使用している状況です。

その他に、内容についてご不明な点があればご質問くださるようお願いいたします。

(金坂市長)

全体として、クラスが減少していると思いますが、空き教室はこの程度なのですか。まるまる空いてしまっている教室はないのですか？

(事務局)

現在は、この状況です。ただし、普段は使用していないPTA会議室や学童教室に使用している教室はあります。

(齋藤教育長職務代理者)

季美の森小学校は思っている以上に空き教室がないように感じます。

(深田教育長)

季美の森小学校は、もともと各学年2学級ずつなので、この程度だと思います。また、大網小学校の空き教室を少人数で使用していますが、これから段階的に35人学級になると、教室が不足してしまう状況です。将来的に中学校も35人になると、大網中学校は全学年不足してしまいます。

(金坂市長)

大網小学校の児童数が多いので、学区を変更して対応するなどはいかがですか。

(事務局)

大網小学校は、東金線から山側が学区となっておりますが、8割以上の児童がみどりが丘地区なので、変更してもそれほど児童数は変わらないと思います。瑞穂小に近い池田地区の子どもはほとんどいないですし、前島地区はすでに大網東小学区

となっておりますので、学区編成は難しい状況です。

(松本委員)

増穂中学校は部活の種類も少なくなってしまうので、バスケットボールをするために大網中学校に通っていると聞きました。ほんの数人ですが、希望の部活が出来ない状況になっているようです。野球、サッカー、人気のある男子バスケットボールがないと聞いています。部活で学校を選ぶことが良いことなのか悪いことなのか解りませんが、それが子どもの希望であれば選択肢の一つだと思います。

(深田教育長)

増穂中の運動部は6種類で、バスケットボールはありません。大網中は11種類あります。

(松本委員)

大網中は場所を確保することが大変なようで、大網白里アリーナで行っているようです。

(金坂市長)

逆に、増穂中や白里中には、場所に余裕があるのもったいないと思いますが、部活を実施するには指導者も必要になりますので難しい問題だと思います。

(深田教育長)

小中学校の児童生徒数でいいますと、令和3年度は約3,360人になります。この数字は、過去をみると昭和55年、54年頃の人数と同じになります。令和5年は3,158人ですので、昭和53年頃にもどった人数になります。昭和45年に増穂中がなくなり、10年間はだいたい約3,100人で同じペースでありましたが、その後から急速に人数が増えてきました。そのような時代に戻っています。

(金坂市長)

ちょうど私が育った時代ですが、当時、白里地区でも子どもは700人以上は居たと思います。そう考えると、人数が一つの地域に集中してしまっていることが解ります。

(深田教育長)

白里地区でも、700人、800人いる時期が長く続いていました。

(金坂市長)

毎月、出生届の件数の報告があるのですが、その地区別を見ると白里地区はほとんどなく、全くない月もあります。

(深田教育長)

令和3年度の小学校入学者数が約350人で、今1歳の子どもが入学する頃には250人程度になると予想されています。この250人が7校に分散したらどうなるかを考えなくてはならないと思います。人数だけ見ても、そのような状況が読み取れます。

(松本委員)

季美の森小学校は、全学年1クラスだと6年間同じメンバーで学校生活を送ることになります。なにかトラブルが起きたときなどが心配されるのではないかと思います。

(炭田委員)

6年間より前の、幼稚園から引きずることがあります。幼稚園で何かトラブルが起こり、小学校在籍期間である6年間、からかわれたりすることがあります。クラス替えがあれば逃げ道も作れますがそれが出来ず苦しいところだと思います。先週、入学説明会に参加したのですが、6年生24人、5年生23人、4年生21人、3年生17人、2年生15人、1年生14人でした。その中で、1年生は女子10人、男子4人と聞いて驚きました。子どもには切磋琢磨することが必要だと思うので、いろいろな人がいる中で、さまざまな考え方があり、1人1人違うことを学ぶことは、幼稚園、小学校でも必要だと思うのでそれが出来ないのは残念だと思います。もちろん少人数の良さもたくさんあり、現在我が子がいる3年生、4年生を見ると、少人数だから出来る総合学習だったり、きめ細やかな対応などご満足されている保護者の方もいらっしゃいます。やはり子どもにとって一番良い判断をしていただきたいと思っています。

人数が少ないのでサッカーなどが出来ないなど、遊びの幅も狭くなってしまっていますし、学校行事も少し寂しい感じがしてしまいます。まち全体をみていると、公園などから子ども達の声があまり聞こえないので活気がないように思えてしまいます。

(松本委員)

逆に、大網小学校の周辺は活気があります。公園でも子ども達の遊ぶ声が聞こえてきますし、子育て交流センターができたので、子ども達もたくさん通っています。

(齋藤教育長職務代理者)

大網小と季美の森小学校は、そんなに距離が無いと思いますがどうですか。

(松本委員)

山を下るだけなので、そこでスクールバスの活用なども検討しても良いと思います。

(炭田委員)

季美の森小学校の保護者は、上がってきて欲しいと思っています。

(深田教育長)

自由選択制もあるかもしれません。

(今井委員)

大網小学校と季美の森小学校のバランスを学区で調整できないのですか。

(炭田委員)

保護者の話を聞いていると、大人数に入れたいと思う保護者と、少人数を希望する保護者がいるようなので、学校の個性が出せると良いと思います。

(金坂市長)

いろいろな意見がありましたが、どれも考えなくてはならない問題だと思います。

(齋藤教育長職務代理者)

小中学校は、200人から300人ほど、ある程度の人数がいた方が良いと思います。クラスが変わるたびにメンバーが替わることは、チームワーク、協調性を育成するためにも必要なことだと思います。

(金坂市長)

それぞれの地域で、あちらの学校に行きたい等があるのでしょうか。

(今井委員)

小中学生は、感受性の強い時期になり、その頃の友達是一生の友達になることもあるので、人数は少ないより、ある程度いて一緒に遊んだり喧嘩等をした方が人間形成にもなるのではないかと思います。

(深田教育長)

ヨーロッパの国際水準には達したかと思っています。先進国で30人や40人の学級編制をしているところはないので、20人程度であれば先進国並みだと思います。

(金坂市長)

山奥や離島では聞く話だが、とても身近になってきていると思います。

(松本委員)

同じ市内でありながら、これほど人数が違うのには驚いています。

(金坂市長)

先ほどお話にありました自由選択制について考えてみる価値があるのではないのでしょうか。

(深田教育長)

みなさまからの要望等を伺い、勉強しながら可能であれば考えていきたいと思えます。

(今井委員)

白里地区で解るように人口に偏りがあります。市全体をみて考えて行く必要があると思えます。

(齋藤教育長職務代理者)

このような話は地元で私よりも年齢が上の方からも出ております。先ほど申し上げたとおりデリケートな問題であり、理屈ではないので、市の財政状況や少子高齢化の状況、また保育園や幼稚園等の状況を細かく丁寧に説明し、整備・再編する必要性をご理解いただかなければならない時期に来ていると思えます。

(金坂市長)

小中一貫校はすでにありますが、幼小中の一貫校はありますか。

(深田教育長)

幼稚園は義務教育ではないのでありません。しかし、同じ敷地内で行うことは可能だと思います。今後は小中の義務教育学校が連携した学校組織を作っていかなければ成り立たない部分はあると思えます。

(齋藤教育長職務代理者)

幼小中が同じ敷地内で運営されるのであれば、時代の変化と言うことで地元の方々も納得するかもしれません。

(深田教育長)

現在、コミュニティスクールという考え方があります。学校運営協議会に地域の方々にもご参加いただいて、いろいろな課題について協議して行くというものです。大綱にも人の活用とありましたが、学校・家庭・地域が連携しそれらの方々のお力を借りながら進め、その中でご意見を伺いながら新しいスタイルを確立していくことが大切かと思えます。

(金坂市長)

もう、それらを考えていく時期だと思います。

(深田教育長)

はい。また、幼稚園については、平成8年に約700人の園児がおりましたが、来年度は160人です。それが各学年3クラスずつありますので全12クラスとなると、1クラス10人いるかいないかという状況になってしまいます。質の良い教育をするためには、さまざまなことを考えて行く必要があると思っております。

(今井委員)

私立幼稚園はどこも100%近くで、木の花幼稚園が99.7%、季美の森幼稚園が83.5%、合計93.2%でほぼ定員を満たしています。公立の幼稚園は41%なので、定員の半分以下となっています。

(金坂市長)

他にご意見はございますか。松本委員いかがですか。

(松本委員)

今年はコロナがあり体制が変わり、4月は学校より先に学童が始まってしまいいろいろ大変だったと思います。子ども達は6月から勉強が始まりましたが、やはり戸惑う子ども達もおり、先生方は対応に大変苦慮されたと思いますので、先生方のフォローも必要なのではないかと思います。

(金坂市長)

コロナ禍において、4月以降の現場の負担はいかがでしょう。

(深田教育長)

その時点では、コロナがどのようなものなのか解らず、学校現場では子ども達の命を預かっているという思いから、非常に緊迫感のある生活をしていたと思います。消毒については、とても丁寧に行っていました。その負担は今までに無かったことなので、気持ちと労力の両方が大変であり負担であったと思います。

(金坂市長)

それぞれ大変な日常を送っているにもかかわらず、ねぎらいの場も設けられない状況です。

(深田教育長)

日本中の子どもの数が減っています。2019年は、84万人の出生者で、2020年はコロナの関係で80万人を下回るかもしれないとのこと。

私の頃は240万人いましたので、かなり減ってきています。日本全国、千葉県も減っている状況の中で大網白里市だけ増やすのは難しいと思います。

子ども達に、より良い学びを保障するには、今後数年のうちに、いろいろな施策

を図り環境整備を進めていかなければならないと考えております。

(金坂市長)

それでは、ご意見も出尽くしたようですので、議事を終了させていただきます。いただいたご意見につきましては、今後事務を進めていく上でしっかりと反映させていくように事務局においてよろしく願いいたします。

円滑かつ有意義な会議運営にご協力をいただきありがとうございました。

これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。これより先は、事務局に進行をお願いします。

4. その他

なし

5. 閉会

議事終了